

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」#25 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 2 5 原作シナリオ

1 片町にある「居酒屋らくまつ」店内(夜)

テーブル席で向かい合って座るサオリとその母・杏子(意外と美人。50代)。

サオリ「お母さん、少し痩せたんじゃない？」

杏子「恋してるんだもの、当然よ」

サオリ「こ、恋！？」

男の声「生中、お待ち！」

サオリと杏子の前にジョッキを置く金髪バイト店員ハルオ(20代前半)。

ハルオ「(緊張の面持ちでサオリに頭を下げ)うっす」

オネエ所長の声「杏子が男と付き合ってるですって！」

2 「プライベート・リサーチ」室内(翌日)

サオリを前に、動揺を隠せないオネエ所長。

サオリ「お母さんを捨てたおっさんがとやかく言う権利はないけどね」

オネエ所長「(平静を装って)そりゃそうだけど」

サオリ「カレシ、あたしより年下らしいわ」

オネエ所長「(思わず立ち上がって)……何よそれ！」

サオリ「結婚したいんだってさ」

オネエ所長「そんなの、騙されてるに決まってるじゃない！」

3 「居酒屋らくまつ」表(夜)

オネエ所長とサオリが物陰から様子を窺っている。

サオリのOFF「ここがお母さんの行きつけの店」

4 同・店内

カウンター席で豪快にビールを飲んでいる杏子。

ホールで働くハルオと何やら楽しそうに会話している。

サオリのOFF「あれがカレシのハルオ君。中学時代から引きこもりで高校中退、いまは居酒屋でフリーター」

杏子「(一気に飲んで)ハルちゃん、お替わり！」

5 外

店内の様子を窺っているオネエ所長とサオリ。

オネエ所長「飲む時は何か食べなさいっていつも言ってるのに」

サオリ「お母さんが酔いつぶれた時、彼が介抱したのがきっかけなんだって」

6 SNSの画面

カラオケの個室、杏子とハルオが盛り上がっている写真がUPされている。
コメントに「年下のカレとデート中！」とある。

7 片町の通り(真夜中)

酔い潰れた杏子をハルオがおんぶして歩いていく。

ハルオ「テキーラでシメるなんてムチャなんすよ、杏子さん」

杏子「飲まないで眠れないのよお〜」

雑踏のなかに消えていく杏子とハルオの姿を見送っているオネエ所長とサオリ。

8 公営団地(別の日)

やってくるオネエ所長とサオリ。

サオリ「(とある一室の窓を見上げて)あそこが彼んち。サラリーマンの父と祖母、小学生の弟と妹と暮らしてる」

オネエ所長「母親は？」

サオリ「離婚して出て行ったそうよ」

そこへ団地の建物から老女が覚束ない足取りで出てきた。

その後を慌てて追ってくるハルオ。

とっさに物陰に隠れるオネエ所長とサオリ。

ハルオ「(老女に追いついて)ばあちゃん、どこ行くの？」

祖母「あんた誰や」

ハルオ「孫のハルオでしょ」

祖母「あんたなんか知らん」

ハルオ「ご飯できたよ。一緒に食べよ、ばあちゃん」

祖母「ほうか。ご飯できたか」

老女に寄り添って部屋に戻っていくハルオ。

9 団地の一室

食卓を囲んでいるハルオと祖母、幼い弟と妹。

ハルオ「父さんは今日も遅いから先に食べよ！」

一同「いただきます！」

一斉に食べ始める祖母や弟妹たち。

サオリのOFF「彼、幼い弟や妹の世話しながら、認知症の祖母の面倒も見てるんだって」

10 団地の階段(別の日)

スーパーの袋を提げた杏子、いそいそと上がっていく。

サオリのOFF「お母さん、この部屋に入り浸っているの」

洗濯物を干しているハルオが窓から顔を出して笑顔で出迎えている。

1 1 「プライベート・リサーチ」室内

話しているオネエ所長とサオリ。

オネエ所長「サオリ、よく調べたわね」

サオリ「これでも探偵の端くれだから」

オネエ所長「それで、あんたの所見は？」

サオリ「少なくともアイツ、悪いヤツじゃないと思う。金髪頭だけど」

オネエ所長「あたしも同感」

サオリ「だからって自分の娘より年下の男と結婚なんて、お母さんどうかしてるわよ」

オネエ所長「……杏子は結婚できないわ」

サオリ「そんなの分からないじゃない！ 別れたおっさんがどうして断言できるのよ！」

オネエ所長「……だってあたしたち、まだ夫婦だもの」

サオリ「それ、どういうこと？」

オネエ所長「あたし、離婚届のハンコ押してないんだ」

1 2 団地近くの公園

ブランコに乗ったハルオと杏子が話している。

ハルオ「なんか気が重いなあ」

杏子「ハルちゃん、この通り(とハルオを拝む)」

1 3 「居酒屋まわりみち」(別の日の夜)

カウンター席に並んで座っているオネエ所長と杏子。

その姿を見ながらアヤカと末吉がひそひそ話している。

末吉「あの人がオネエ所長の元奥さん……」

アヤカ「オネエ所長、なんかビビってますん？」

末吉「彼女、若いころ、箱乗りしてたそうや」

アヤカ「(目を丸くして)元ヤンですか！」

ビールのジョッキを豪快に飲む杏子。

オネエ所長「あんた、ちょっと痩せたでしょ？ お酒の飲み過ぎよ」

杏子「長年連れ添ったダンナが突然カミングアウトして家を出てったのよ。少しぐらい痩せて当然です」

オネエ所長「(肩を落として)……あたしに話して何？」

杏子「結婚したい人ができたの」

離婚届を差し出す。

杏子の欄にすでに「市山杏子」と署名捺印されている。

杏子「正式に別れて」

オネエ所長「(離婚届を見て固まっている)……」